



特定非営利活動法人

神戸日独協会会報

BERICHTE DER NPO JAPANISCH-DEUTSCHEN GESELLSCHAFT KOBE

Nr. 369

April 2022

NPO法人 神戸日独協会

〒651-0087

神戸市中央区御幸通8-1-6 神戸国際会館19F

TEL/FAX 078-230-8150

郵便振替 01160-9-18199

E-mail: info@jdg-kobe.org URL <http://www.jdg-kobe.org/>

NPO JAPANISCH-DEUTSCHE
GESELLSCHAFT KOBE

International House Kobe 19F

Goko-Dori 8-1-6 Chuo-Ku

651-0087 KOBE/JAPAN

新年度にあたって

NPO法人神戸日独協会会長 柘田 義一

桜の満開と共に新年度が始まりました。晴天下の桜花から目をテレビ画面や新聞紙面に移すと、ロシアのウクライナへの侵攻と悲惨なウクライナ状況、第7波到来をも憂慮されるコロナ感染の現状、諸物価の高騰等々、新年度を機にコロナ禍からの脱却をとの意気込みも桜花と共に散らされそうなこの頃、会員の皆様は如何お過ごしでしょうか。

会報の先月号にて特にこの二年間にわたるコロナ禍による協会財政の困窮化をご説明しました。この苦境を脱し協会運営の健全化を図るために、昨年度来理事会と作業グループにて対策を数度協議してきました。財政の困窮化の主要因として、会員の減少、講座・教室の受講者減少、主催行事不開催、事務所家賃、事務所運営経費等々が挙げられます。前三項目についてはコロナ禍の影響が特に大きいと判断しています。新年度に当たり、前三項目については「対面開催」、「オンラインの導入」等による対策を講じます。未だコロナ禍ではありますが感染予防を十分に配慮した上で、対面による行事を拡大していきます。ドイツ語講座については、コロナ禍による国際交流の停滞、勤務形態の変容等に応じるべくカリキュラムの変更による多様なクラスの提供を致します。これまで定例行事としての会員懇親会、クリスマス祝賀会、講演会、コンサート等も積極的に開催していきます。後者二項目については、今後の協会の活動・運営に関わることです。これまで協会事務所は「日独交流の場」としてドイツ図書室、ドイツ語講座・ドイツ文化教室、Stammtisch やドイツ語談話室をはじめ各種サークルの場として活用されてきました。しかしながらコロナ禍以前から事務所の活用が停滞しています。平日夜間は講座で利用されていますが、昼間は一部講座・教室で使用されるのみです。来室される会員の方も激減しています。事務所の在り方を再考し、より低家賃の事務所への移転も議論しています。IT技術の発達した今日事務の対処変更も検討すべきでしょう。新年度からホームページを刷新し、SNS等も導入の予定です。

この二年間協会と会員皆様との絆をより維持すべきでしたが、これに反して乖離してしまったことを心からお詫びいたします。この苦境を脱するためには、何よりも会員皆様のお力添えなしには叶いません。何卒ご協力をお願いいたします。

2022年度総会開催予告

NPO法人神戸日独協会の2022年度通常総会を対面形式にて開催します。

日時： 2022年5月14日(土) 15:00～17:00

場所： 未定(会員懇親会未定のため)

2年間コロナ禍のために書面形式による総会でしたが、本年度は感染予防に十分配慮した上で、対面形式で開催します。

なお、例年のように総会後の会員懇親会開催の可否を検討中です。今後の感染状況に応じて決定をし、会報次号にてお知らせします。上記日程をご予定にお入れください。

ドイツ語講座・ドイツ文化教室2022年度第 I 期開講

4月11日より「ドイツ語講座・ドイツ文化教室2022年度第 I 期」が開講しました。

近年の英語偏重の学校語学教育のためにドイツ語学習者は漸減しています。殊にこの二年間にわたるコロナ禍による外出自粛とドイツとの往来制限等々によりドイツ語学習の低迷が顕著になりました。このコロナ禍においてもオンライン授業の導入によりドイツ語講座・ドイツ文化教室は継続的に開講してきましたが、この二年間でドイツ語講座・ドイツ文化教室の受講者は激減をしました。神戸日独協会はドイツ語講座の再活性化のために、次のようなカリキュラムの変更、新割引制の導入をすることになりました。

カリキュラム変更について

これまで入門→初級→中級と段階的にクラス編成をしてきました。今期より会話クラスと講読クラスでは従来通り入門→初級(後期)とクラス編成(一般コース)をしますが、初級後期及び中級対象のクラスはテーマ別のクラス編成(テーマコース)をします。受講者の学習目的・関心及び現今の外国語学習の時代風潮に応じての改変です。またこの両コースに加えて、オンライン(ZOOM)に特化したクラスも開講します。

講座内容については、協会事務室にお尋ねください。

割引制度の新設について

これまでの会員割引(一講座について1500円引き)に加えて、学生割引(一講座について5000円引き)と複数クラス受講割引(2つ目クラスから1割引)を新設しました。新会員にドイツ語講座を体験していただくために、3回分の体験チケット(入会期と次の期の開講講座有効、同じ講座の連続受講は除く)を配布します。これらの割引制度とチケットを活用して奮って講座を受講してください。

従来のようにマスク等の着用をはじめ授業でのウイルス感染防止に努めて対面授業を行います。感染状況に応じて、クラスの事情に応じてオンライン(ZOOM)授業へ移行することもありますので、予めご了承ください。ご参加をお待ちしています。

神戸日独協会ドイツ語講座特別講座

「ドイツ語をより身近に、より深く」

神戸日独協会は、ドイツ語に対する関心・興味・理解をさらに深めていただきたく、通常授業とは異なる観点から4～6月と10月に特別講座を開講してきました。新年度4月からの講座第Ⅰ期開講に合わせて、第3回ドイツ語特別講座「ドイツ語をより身近に、より深く」を開講します。

今回はドイツ語学習者が先ず困惑する「文法上の性」について語学上とコミュニケーション上の役割について考察します。それに引き続いて、私たちの言語生活では「自分の気持ち」の表現と「相手の気持ち」の理解が極めて重要です。この「気持ち」は「話法 Modus」と呼ばれ、ja や doch のような話法の副詞、können のような話法の助動詞、接続法等によって表現されます。これらの用例については文法によってある程度の理解はありますが、実際のコミュニケーションでの活用に自信はありますか。これらの問題について教授経験豊かな講師がコミュニケーションの面から、ドイツ語学の面から分かりやすくご説明をします。

この講座は入門・初級者から中級者を対象にした講座です。ドイツ語をこれから学ぼうとする方、現在学習されている方、ブラッシュアップしようとする方に最適の講座です。ZOOM使用(対面授業併用)により行いますので、時間の都合や感染予防などで教室へ通えない方にお勧めの講座です。公開講座ですので、非会員の方も是非ともご参加ください。

開講日時と授業内容:

第1回 4月23日(土)午前10:30～12:00 「文法上の性の謎にせまる」

ドイツ語の学習者は「文法の性」を、ドイツ語の名詞で覚えなければならない、ただ面倒として考える人が多いに違いありません。教科書もほとんどが名詞の変化をリストアップするのみで、「文法の性」をそのコミュニケーション上の役割から説明するものがとても少ないです。このレッスンではコミュニケーション上の役割に焦点を合わせながら、より効率的な学習を目指します。初心者の方はもちろん、「まだここが難しいな」と思う中級者の方にもお勧めです。

第2回 5月21日(土)午前10:30～12:00 「話法とは、話法の助動詞の役割」

第3回 6月11日(土)午前10:30～12:00 「話す言葉、スピーチ、アカデミックライティング、文学 — 様々なテキストの構成」

第4回 6月25日(土)午前10:30～12:00 「敬語・丁寧語」

話す時私たちは単に言葉を並べるだけでなく、常に人間関係などの社会的な要因も気持ちも表現しています。そこには「話法」という文法が役に立ちます。外国語の学習者は、まずは内容の伝達ができるようになれば良いと考え、「話法」を後回しにする傾向が見られます。しかし、それは決して良いことではありません。コンテンツは無限にあるのに対して、「話法」は数少ないパターンに基づいているので、「話法」を身につけることによってより効率良く学習できます。例えば、ビジネスレターを書きたい場合、必要な言い回しや敬語などの「話法」さえ知っていれば、文全体の「枠組み」を作ることができます。そしてそこに内容を導入しますが、それがさほど難しいことではありません。逆に、コンテンツをたくさん集めることができたとしても、適切な「話法」についての知識がなければ、手紙が書けません。日常会話についても同様な

ことが言えます。「話法」さえ知っていれば、内容伝達が大分楽しくになりますので、早く話せるようになりたい、早く自ら文章を書けるようになりたい方は是非「話法」の学習に取り組んでみてください。

講師紹介:

神戸日独協会常任理事 Stefan Trummer-Fukada (元神戸大学教授)

神戸日協会会長 柘田義一 (神戸大学名誉教授)

授業形式: ZOOM によるオンライン授業。協会会議室での対面授業を併用。

定員: 20名

受講料: 1回会員1500円 (非会員2000円) 全4回受講の方は1割引き

お申込: 神戸日独協会事務局へ電話(078-230-8150)またはメール(info@jdg-kobe.org)にて4月22日までにお申込み下さい。

申込後、入金を確認し次第、アクセスのリンクをお送りします。

会員による企画 「我が家で迎える祝祭」

第2回 「我が家で迎える手作りオースタン」参加感想

Frohe OSTERN !!!

会員 宮本 真理子

「復活祭おめでとう！」ということで、今回は復活祭にちなんだ手作りの企画でした。

私は初めての参加なので、ちょっとドキドキしていました。

まず最初は手書きのポストカードです。下書きもなくいきなり筆で描けるの！とおもいましたが、講師の丁寧な説明とお手本で、可愛いひよここと美しい花を必死に練習しました。う～ん出来栄えは何十年かぶりに描いた絵にしては上出来だったということにしておきましょう。

次は白玉餅とバタークッキーです。作業にはいる前にドイツでの復活祭の思い出の話や写真を拝見しました。白玉餅は白餡も生地も用意してくださっていたので、餡を楕円にして生地でくるみ、食紅で赤いお目々と茶色のお耳を描いて出来上がり。ウサギの形のバタークッキーは事前に作ってくださったものを皆さんで分けました。さあ、試食かとおもいましたが、もう一つ作業ありました。

最後はミニフレームアートとナプキンのうさぎです。フレームアートは事前に用意していただいたもの(ここにもうさぎがおります)に、ボンドで小さなたまごや葉っぱ、お花を張り付けました。もちろんうさぎには赤いお目々です！。そして紙ナプキンでうさぎに挑戦！ですが、ここではうまくできませんでしたが、家に帰って練習したら可愛いナプキンのうさぎができました。これはちょっと友達に自慢ができそうです。

すべてが完了して、お待ちかねのお茶の時間です。私は白玉餅とクッキーぜんぶいただいて、大満足の後で午後でした。3時間も長いなーと思って参加しましたが、あっという間に時間がたって、久しぶりにお会いできる方もいて楽しい一日でした。

講師の小田晶子様、日下部菅子様、柘田節子様、いろいろとご準備をありがとうございました。

第3回 「我が家で迎える手作りこどもの日～春爛漫～」

会員の皆さんが自宅で楽しいこどもの日を迎えられるように、「クリスマス」「オースターン」に引き続いて「我が家で迎える手作りこどもの日～春爛漫～」を行います。

春爛漫の中で「こどもの日」の食卓を飾る料理やお菓子と装飾品を一緒に作りましょう。

講師と内容

日下部管子さん：桜餅など

小田晶子さん：春をテーマにしたはがき絵

柘田節子さん：こどもの日の鯉のぼり額

日 時： 4月23日(土)13:30～16:30

場 所： 神戸日独協会会議室

定 員： 15名

参加費： 会員1500円・非会員1700円(材料費＋部屋使用料)

申 込： 4月21日までに電話・Fax、メールにて協会事務局へお申込み下さい。

材料の準備は講師が行います。マスクの着用をお願いします。

ドイツの桜の思い出

料理研究家 日下部 管子

コロナ禍が続く中でも、季節は巡り、桜前線は今日もひたすら北に向かって走っています。

この季節が訪れると、私の心の中にもドイツで見た懐かしい桜の花とその木の思い出が甦ります。

ホームステイ先のヘルマン家と、お隣の庭の境界線に近いところに、背の高い一本の木がありました。ある日の午後、エリカの呼ぶ声で庭に出ると、お隣のご主人が伸びた木の枝の剪定をしていて、切り取った枝の何本かをお隣の奥さんが束にして、私たちに渡して下さいました。何の花の木かと尋ねると、「咲くまで秘密！」とエリカはうれしそうに笑って、リビングルームのあちこちにその枝を花瓶に生けていました。

3月のドイツはまだ寒く、朝もなかなか明けなくて陽も早く落ち、とても寒いのですが、部屋の中はどこも一定の温度に保たれていてTシャツ一枚でも過ごせました。暖かな部屋の中で、木々の蕾はどんどん膨らみ、緑色からやがて薄紅色に変わり、ある日の朝、いくつかの枝に花が開いていたのです。キッチンに走って行き、エリカに「桜の花ね！」というと、彼女は頷いて「私たちの愛するあなたの国の花よ！」と胸が熱くなるような言葉をかけてくれました。

桜の花は、日本だけのものと思っていましたが、北半球に広く分布していて、カナダ、アメリカをはじめ、ヨーロッパの各地にも春の使者として花咲きます。先日も、オランダの友人が「公園の桜が咲いたよ！」と言って写真を送ってくれました。その姿はオランダ人のような、とても背の高い桜の木でした。

会員の広場

このコーナーは、会報を通して会員相互の交流をしていただくための「広場」です。ご投稿をお待ちしています。

(投稿規定: MSPゴシック12ポ、A4 1枚程度まで (多くの方に投稿していただくために、字数を厳守してください)、添付にて毎月第2月曜まで事務局へ)

イエナ便り —イエナの町紹介—

会員 竹中らら(イエナ在住)

大学の春の休暇を利用して、2月と3月に日本に一時帰国しておりました。神戸日独協会の事務所を訪問し、枡田義一会長、Stefan Trummer-Fukada 常務理事、林良子理事にお会いすることができました。日本でのドイツ語教育の様子やドイツの大学院での学習についてお話し、今後のドイツでの研究への示唆を頂くことができました。また、ドイツ語講座講師の Matyas 先生や受講生方とも交流することができました。このように、協会に関わる方々にお会いできたことは非常に嬉しく、ドイツでの学習へのさらなるエネルギーが湧いてきました。

今回のドイツへの帰国フライトはロシア上空を通過しない迂回ルートのため、東京からウィーン(燃料給油のため上陸)、フランクフルトを経由し、イエナの最寄りのライプツィヒ空港を目指す長い旅になりました。昨今の国際情勢について、ドイツでは空港にウクライナからの避難民を支援するブースが設けられていたり、町にもポスターや立て看板などで支援の場所や内容が分かりやすく示されています。大学でも3月にウクライナ情勢について議論するオンラインの催しが二度行われました。

さてこれまでの Jena 便りでは、三回にわたり大学院での学習について書きました。今回は私の住むイエナの町について書きます。イエナはドイツ中央部の Thüringen 州にあり、州都 Erfurt に次ぐ第二の都市です。人口は約11万人、1558年に設立されたイエナ大学(Friedrich Schiller Universität Jena)があり、かつてシラー、フィヒテ、シェリング、ヘーゲル、シュレーゲル、W・フンボルトなどが教鞭をとりました。また、1846年カール・ツァイスによって顕微鏡やカメラなどの精密機器工場がつくられてから工業化が始まり、今日は薬品工業や製図業も盛んです。

町の中心である Marktplatz には旧市庁舎や市立博物館があり、文化的催しも定期的に行われています。大学は町の各所に点在しており、モダンな新校舎や図書館から、20世紀初頭に建築された大学本館まで、大学街としての趣を感じることができます。またイエナ大学に加え、エルンスト・アッペ応用科学大学(Ernst-Abbe-Hochschule Jena)や自然科学系の研究所が多くあり、世界各国からの留学生や研究者が集まり、イエナの町に活気を与えています。

日本との関わりについては、大学や研究機関に所属する日本人が居住しており、毎週一度 Japan-Stammtisch が開かれています。日独に関係する人や日本に興味があるドイツ人を始め、様々な国からの人々が集まり、情報交換をしています。主催者の情報によると、30人ほどの日本人が定期的に催しに参加しているとのこと。また今学期からはイエナに留学をする日本人学生も増加したとのこと。学生寮の管理人の方のお話では、これまで日本人学生は2人だったが、今学期は5、6人新規入居してくるということです。イエナ大学や市民大学(Volkshochschule)

でも日本語の初級講座が毎学期提供されており、日本人の講師の方が講座を担当されております。また Marktplatz には日本人オーナーによるレストランがあり、多様な年齢層の客でにぎわっています。ランチの定食が美味しいと評判です。

イエナの魅力について特筆すべきことは、イエナを含めたザーレ・ホルツラント区域 (Saale-Holzland-Kreis) の自然の美しさでしょう。ザーレ川沿いには散歩道があり、花や鳥が心を癒してくれます。また周辺のハイキングコースでは、一年中ユニークな植物を発見し、魅惑的な村を歩き回り、興味い建物とその物語に出会うことができます。

このように風光明媚で、かつ人々の活気あふれるイエナはその輝きを失うことを知りません。来週からは新学期が始まります。新たな発見や出会いに期待し、春の始まりの4月を過ごしていきます。

ドイツ語談話室

第209回ドイツ語談話室

日時：2022年3月19日(土) 14~16時

場所：神戸日独協会会議室

テーマ：春近し

今回の司会はドロテア・合田さんが担当され、ドイツの春で思い起こすのは、寒くて長かった積雪の季節から、雪が解けて畑の土を耕す厳しい労働の始まる季節の事だ。畑が耕され整備が出来たら、植え付けがはじまる。今日では、特に小規模の農家では後継者がいなくなり、大規模な資本に取って代わられてくる。また、ドイツで春は一般に春分に当たる、3月20日に始まる。子供のころ外に出てバトミントンをして楽しんだことを思い出す。日本で驚くことの一つは、本来春に出回る農作物が、季節を問わずに年中出回っていることだ。特にびっくりするのは、6月に出回るイチゴが年中あり、その値段たるや“一粒”が驚く高値で売られていて、実に信じがたい。

以下に参加者の皆さんのテーマに関する発言の一部を紹介する。

—ボーデン湖畔の春に咲く美しいリンゴの花の景色を見ていると、藤村の詩“初恋”を思い起こす。本当に美しく淡い花である。

—アーモンドの花の咲いている景色は素晴らしい。また、木蓮の花も、華やかな春の季節の訪れを告げる。沈丁花のかわいい花は、その甘い香りが実に素敵である。

—春の季節は“三寒四温”で、変化を繰り返しながら、徐々に暖かくなってゆくものだ。アネモネの花を家で育てているが、今ちょうど美しく咲き始めていて、気分が晴れる。

—日本でイースターの季節は暖かくなって来ているが、ドイツではまだかなり寒いことがある。

—ドイツ駐在中、春になると訪れたハンブルグ近郊アルテスラントの、桜の花と木蓮の花の咲き乱れているさまが実に素晴らしかったのを懐かしく思い出す。

—春に行きたいトップ2か所は、京都の嵐山、それに姫路城だ。どちらも素晴らしい桜の名所で、神戸日独協会では遠足に行つてはどうかとお勧めしたい所だ。

—春と言うと、物事の始まりを連想する。農作業の始まり、学校への入学、新人たちの企業への

入社、等々、あらゆることのスタートである。

—春にはまづ、沈丁花や梅が美しい花と素晴らしい香りを届けてくれる。次に、こぶし、木蓮の明るい花と香り、さらに桜の花の絢爛豪華な景色が広がる。

今後のドイツ語談話室の予定

第210回 2022年4月16日(土) 14-16時 テーマ : 日・独の教育制度

第211回 2022年5月21日(土) 14-16時 テーマ : 食料自給率

Deutsche Gesprächsrunde

Protokoll der 209. Deutschen Gesprächsrunde

Zeit: Samstag, 19. März 2022, 14 bis 16 Uhr

Thema: Der Frühling kommt

Dieses Mal hatte Frau Dorothea Goda die Gesprächsleitung. Das Wort „Frühling“ weckt bei ihr verschiedene Erinnerungen, auch daran, dass mit der Schneeschmelze nach der langen Winterszeit die schwere Ackerarbeit begann. Sobald die Äcker gepflügt waren, begann die Aussaat. Heute fehlt es bei vielen Kleinbauern an Nachfolgern, die Betriebe werden mehr und mehr von Großunternehmen übernommen. In Deutschland gilt die Frühlings-Tagundnachtgleiche am 20. März als Frühlingsbeginn. Die Gesprächsleiterin erinnert sich, dass sie zu dieser Zeit oft draußen war und Federball gespielt hat.

In Japan war sie überrascht, dass Frühlingsprodukte das ganze Jahr über am Markt sind, dass zum Beispiel Erdbeeren, die im Juni auf den Markt kommen sollten, jederzeit erhältlich sind, wenn auch zu unglaublich hohen Stückpreisen.

Hier einige der Wortmeldungen zum Thema:

- Die Apfelbäume am Ufer des Bodensees erinnern mit der schönen Blässe ihrer Blüten an das Gedicht, „Erste Liebe“ von Toson Shimazaki.
- Besonders schön sind Landschaften mit Mandelblüten. Auch die Magnolienblüten und der süße Duft des hübschen Seidelbast kündeten den Frühling in seiner ganzen Pracht.
- Das Wetter im Frühling ist sehr wechselhaft, „drei Tage kalt - vier Tage warm“, wie man zu sagen pflegt. Wenn, wie jetzt gerade, die Anemonen im Garten zu blühen beginnen, erfrischt das das Gemüt.
- In der Osterzeit ist das Wetter in Japan bereits ziemlich warm. In Deutschland kann es noch sehr kühl sein.
- Ein Teilnehmer erinnert sich an die prachtvolle Landschaft mit Kirsch- und Magnolienblüten im Alten Land bei Hamburg, das er besuchte, als er in Deutschland tätig war.
- Zwei von den besten Plätzen für einen Besuch im Frühling in Japan sind Arashiyama in Kyoto und die Burg Himeji. Beide sind für ihre Kirschblüten berühmt und wären auch ein gutes Ausflugsziel für die JDG Kobe.

- Der Frühling ist die Zeit, in der vieles neu beginnt. Nicht nur in der Landwirtschaft. In Japan ist es auch die Zeit des Schulanfangs, und die Zeit des Eintritts ins Berufsleben.
- Der Frühling zeigt sich zuerst in den Blüten von Seidelbast und der japanischen Aprikose, gefolgt von der hellen Blüte und dem Duft der Magnolien und schließlich in der ganzen Pacht der Kirschblüte.

Nächste Treffen:

Samstag, 16. April 2022, 14 bis 16 Uhr, Thema: Die Erziehungssysteme in Japan und in Deutschland

Samstag, 21. Mai 2022, 14 bis 16 Uhr, Thema: Die Lebensmittel-Selbstversorgungsrate

Stammtisch mit Zoom

好きを仕事に： 武村 陽子

丁度1年前の神戸日独協会会報(März)に「ドイツ語通訳案内士試験に合格しました！」と武村陽子さんが書かれていたので覚えていますでしょうか？武村さんは若い頃からドイツ語に興味を持ち、会社員だった1986年に初めて一人でドイツを旅してまた行きたいと思いました。その頃、ロマンチック街道の入ったツアーが人気で、これはドイツに行くチャンスだと思って添乗員を派遣する会社に転職しました。とはいっても、すぐに海外に行けるわけではなく、まずは国内旅行の添乗員。1991年当時は湾岸戦争の真っ只中で海外に行きにくく、北海道や東北などを月に何度も往復しました。そして座学研修の後、海外デビュー。

1. アウトバウンド(日本人が外国に行く)と海外旅行の添乗員

90年代前半は10～12日のヨーロッパ周遊ツアー、中でもゴールデンルートと呼ばれる、ロンドン・ローマ・フランクフルト～ロマンチック街道・スイス・パリのコースが人気でした。90年代後半になると1か国周遊に人気が出てきます。一生に1回の海外旅行から、1年に1回～数回と変わってきました。ヨーロッパだけでなくトルコ、エジプトなど各国に行きました。ドイツ周遊ツアーはクリスマスマーケット巡りが人気でした。

添乗員はガイドではなく、イタリア、スペイン、オーストリアなどではライセンスガイド以外はガイドをしてはいけないことになっています。が、ドイツの小さい町はガイドが付かないので、添乗員が案内することになります。でも、添乗員の一番の仕事は旅程管理で、旅行を終えて無事帰国するとほっとします。

2. インバウンド(外国人に日本を案内)通訳案内士の仕事

2015年にパリでテロが起こり、ヨーロッパに行く人が減りました。海外旅行の添乗員の仕事は不安定なので、2016年にスペイン語の通訳ガイドの資格をとり、翌2017年には英語も取得しました。通訳ガイドの仕事は、日本に来る外国人の観光ガイド。スペイン人を案内することが多く、時々メキシコ人、アルゼンチン人も。スペイン人の場合は2週間ほどかけて日本を回り、そのうち3、4泊する京都で1日だけガイドを付けたりします。金閣寺、清水寺、二条城、中でも嵐山の竹林や、伏見稲荷大社が人気でした。靴を脱ぐ習慣を説明したり、箸の持ち方のデモンストレーションする

ほか、箱根(富士山)とか宮島とか遠方まで行く時は、お風呂の入り方について説明したり、折り紙など、旅の途中もフォローします。

3. 外国語の魅力

添乗員は基本的には英語ができればOKですが、ヨーロッパの言語は少しでもできるほうが仕事はスムーズにいきます。バスの運転手は英語ができないこともよくあります。

ドイツ語は2000年にドレスデンのゲーテインスティテュートに2ヶ月間留学しましたが、海外在住経験はなく、日独協会で学習、インターネットでZDFや、Sumikai, Hallo Deutsch(スイス)など大いに利用しています。そして昨年、コロナで時間ができたのを利用して、ドイツ語通訳案内士の資格を取りました。日本のことをもっと説明できるようにと、ドイツで買った日本紹介のガイドブックを読んで勉強したりしています。(理事:押尾 愛子)

4月の Stammtisch mit Zoom のお知らせ

日 時: 2022年4月16日(土)午前10時~11時

話題提供: 神戸日独協会講師 Mátyás Köszegi 先生

紹介: 神戸日独協会では会話クラスを担当されているクーセギ先生に、日本に住むようになった理由、そして日本での生活について語っていただきます。毎週土曜日のこの時間帯は仕事があるため、今回は Video での出演になります。

神戸日独協会 Stammtisch mit ZOOM

<https://us02web.zoom.us/j/85366355191?pwd=N05kSTl1blVhYkNqc2kvQmd5VjlpPQT09>

ミーティングID: 853 6635 5191 パスコード: 393924

事務室からのお知らせ

事務室開室の変更

4月より事務室の開室時間を変更しました: 平日2時~5時

ご不便をおかけしますが、上記時間外は留守番電話・ファックス及びメールにてご連絡ください。なお、受講料などの納金については、銀行振込と郵便振替をご利用ください。

会報印刷・発送ボランティア募集

会報の印刷と発送を手伝ってくださる方を募集しております。次回の印刷と発送は5月12日(木)を予定しています。お手伝いいただける方は事前に事務室へご連絡下さい(TEL 078-230-8150)。

印刷: 兵庫県国際交流協会作業室(神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号

国際健康開発センター2階、県立美術館西隣)にて、10:30より1時間半程度

発送: 神戸日独協会にて、12:30~